

# 事業報告書

＝令和4年度＝

社会福祉法人 愛光会

日頃より 社会福祉法人 愛光会 に温かいご支援、ご厚情、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。令和4年度における事業のご報告を申し上げます。

## 施設概要

- 社会福祉法人 愛光会
  - 事業内容
    - 指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（定員52名）
    - 指定介護老人福祉施設（地域密着型特別養護老人ホーム）（定員20名）
    - ケアハウス（定員30名）
    - 指定居宅介護支援事業所
    - 指定居宅サービス事業
      - \*訪問介護 \*介護予防訪問介護
      - \*通所介護 \*介護予防通所介護（定員40名）
      - \*短期入所生活介護 \*介護予防短期入所生活介護（定員18名）
- （熊本市よりの委託事業）
- 熊本市北4地域包括支援センター

## 地域支援活動一覧

### 地域支援活動実績報告（令和4年度）

1. 地域の教育機関オンライン講座
  - \*近隣小学校への認知症講座・車いす講習
  - \*近隣中学校への福祉のお仕事授業
2. 地域の教育機関との交流
  - \*さわやかフェスタ応援視聴
3. デイサービス送迎時 見守り巡回

コロナウィルス感染予防を徹底し、例年より縮小して活動を行った。

## 職員研修

- ・社会福祉法人愛光会の一員としての自覚を持ち、弱者救済・地域貢献について考えるため
- ・専門職としての知識・技術・社会性・倫理を備え、利用者本位のサービスを提供できる職員を育成するため
- ・事故防止、感染症予防に努め、安心安全な施設環境を提供するため

月	内 容	講 師
	理念塾	施設長
4	安全運転について	危険予知動画
5	各部事業計画/ 感染症対策	各部課長/ 全国老施協動画
6	高齢者虐待防止・不適切ケア予防・身体拘束の適正化	動画視聴
7	認知症について/ 研究発表	動画/ 栄養課
8	メンタルヘルスについて/ 言葉遣いについて	ら・らぼーと/ 動画視聴
9	感染症予防	動画視聴
10	パパ育休について/ 個人情報保護について	厚労省動画/ 動画視聴
11	ハラスメントについて	厚生労働省(動画)
12	事故防止対策について	動画視聴
1	感染症予防	熊本市感染対策チーム
1	身体拘束の適正化・高齢者虐待防止	動画資料
2	消防避難訓練	防災委員会
2	消火器訓練・AED 訓練	東京消防庁動画/セコム動画
3	認知症について	動画視聴

コロナ禍において職場内クラスターを防ぐため、集合研修ではなく動画視聴研修を主として行った。

## 令和4年度 特別養護老人ホームあいこう(従来型) 事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を施設サービスの根幹とし、基本理念を実現するために多職種が協働し施設サービスの質の向上に努めた。また、下記の目標について職員一丸となって取り組んだ。加えて SDGsに掲げられている『すべての人に健康と福祉を』という目標に携わる施設であることを意識して運営した。

- ① **入居者処遇**・・・接遇4か条「1.笑顔 2.挨拶 3.言葉遣い 4.身だしなみ」及び処遇5か条「1.言葉かけ 2.触れ合い 3.笑顔 4.目線を合わせる 5.共感する」を実践し、かつ定期的な接遇研修も実施して入居者へのサービス向上に努めた。
- ② **個別ケアの充実**・・・個別ニーズに対応するため入居者及び家族から施設生活への要望等の聞き取りを行い、出来る限り望みが叶う様努めた。個別の誕生会ではコロナ禍の制限された中での開催ではあったが、ご家族に写真を郵送することで誕生会の雰囲気共有でき担当職員とご家族との信頼関係の構築にも繋がった。
- ③ **入居者の健康管理**・・・定期検診や日々の観察を十分に行い、異常の早期発見に努める。また、嘱託医や産業医、協力医療機関と連携を図り適切な処置・保健指導を行った。
- ④ **認知症ケア**・・・認知症介護の研修は認知症リーダー研修修了者を講師として特養あいこう会議で開催した。また、認知症委員会も活発に活動し、楽しみながら認知症予防ができるクイズの掲示など創意工夫が見られた。ご入居者のほとんどが何らかの認知症疾患がある為に、一人一人の症状に向き合い支援していく為には重要な研修・取り組みであり次年度も実施していく。
- ⑤ **事故防止の取り組み**・・・試行錯誤しながら事故防止対策に取り組んだが、34件の事故が発生。そのうち行政報告の対象となった事故の件数は6件であった。気をつけていれば防げる事故も含まれており、「事故を起こさない」「事故を減らす」という意識をスタッフ個々が高めることが必要である。

- ⑥ **リハビリテーション**・・・個別機能訓練計画書に沿って個別リハビリテーション及び生活リハビリテーションの充実を図った。入居者が日常生活内で自然にリハビリテーションができる環境作りを行った。
- ⑦ **看取り介護への取り組み**・・・看取り介護についての専門知識の向上を図るため研修を実施した。また看取り介護を行うにあたり、入居者及び家族の希望をできるだけ叶えるための体制作りを行った。令和4年度は6名の方の看取りを実施した。
- ⑧ **褥瘡予防対策**・・・褥瘡アセスメントをもとに褥瘡対策ケア計画書を作成。管理栄養士、看護職、介護職で連携を図り栄養管理・除圧・スキンケアに努めた。また、年1回は勉強会を開催し、褥瘡予防についての知識向上に努めた。重度の褥瘡形成のご入居者は居らずスタッフ連携のもとでケアを実施した結果であった。
- ⑨ **栄養管理**・・・食事摂取状況、体重変化や全身状態等のアセスメントやモニタリングを実施した。栄養ケア計画書の定期的見直しを行い適切な管理を行った。また、咀嚼嚥下機能の評価を行い最後まで口から食べることができるように支援した（経口維持加算の取り組み）。令和5年度においても、経口摂取している方全員に経口維持加算を算定して細やかな対応を実施していく。
- ⑩ **行事関係・レクリエーション**・・・コロナ禍の影響で施設内行事やレクリエーションを縮小しなければならない厳しい年度であった。令和5年度も感染症予防と両立してどれだけのことができるか創意工夫を行っていく必要がある。
- ⑪ **環境整備(施設整備・修繕含む)**・・・居室担当者が中心となり、その人らしく落ち着いて安心した生活ができる環境づくりに取り組んだ。
- ⑫ **職員教育**・・・定期的に内部研修を企画し、職員の知識とスキル向上を目指した。感染症、接遇等の研修、高齢者虐待防止研修など多岐に渡り勉強会を実施した。特に新型コロナウイルス感染症については対応をおろそかにしないよう職員教育をしっかりと行うことが様々なリスク管理に繋がっていく為に大事にしていきたい。

- ⑬ **丁寧な実習生指導**・・・「人材教育」「人材確保」という視点を持ちながら丁寧な指導を心掛けた。コロナ禍においても、介護実習、看護実習の受け入れは実施した。「実習生にとって初めての現場」、「人材育成」ということの重要性を現場職員が再認識し、丁寧な指導を心がけた。
- ⑭ **稼働率の向上(安定した収入の確保)**・・・退居から入居までの調整がスムーズではなかった事や長期入院による空床期間が長く、最終的には87%の稼働率となり非常に大きな反省点である。令和4年度は11名の方が退居の運びとなった。来年度は95%以上確保できるように臨みたい。
- ⑮ **地域に根ざした施設作り**・・・麻生田小学校及び城北小学校とは総合的な学習の時間を使って交流を実施することができた。麻生田小学校では「施設の紹介」と「認知症サポーター養成講座」、城北小学校では「車いす講習会」と「認知症サポーター養成講座」を開催。今年は体育館や教室を使用しての対面での交流ができた為、活気のある活動ができた。令和5年度も両小学校との交流継続を予定している。『地域に寄り添う、地域に何かしらを還元する』という姿勢を忘れずにできることを模索していきたい。
- ⑯ **感染症・災害に強い施設運営**・・・インフルエンザやノロウイルス等の感染症の防止に取り組み、予防から発生時の対応について職員研修等を充実させ感染ゼロを目指していた。しかしながら、令和4年11月～令和5年1月にかけてコロナウイルス感染症によるクラスターが発生及びSSご利用者の感染判明という事態が続いた。幸いにも重篤になるようなケースはなかったものの、職員は日々不安と恐怖につぶされそうになりながらの対応であった。ただし、悪い事ばかりではなくこの事態を無事に乗り越えた経験は、職員一人一人の自信にも繋がった。火災や地震などの災害に関しては図上訓練や避難訓練を重ねることで不測の事態に対応できるようにした。今年度中にBCP(事業継続計画書)を作成することが決まりとなっている為、作成を急ぎ緊急時の施設運営を見える化していきたい。

- ⑰ 科学的介護の取り組み・テクノロジーの活用・・・L I F Eへのデータ提出とフィードバックを活用してP D C Aサイクルの推進と質の高いケアの向上を図る。ベッド内蔵型離床センサーの大規模導入によりサービスの質の向上・業務の効率化を目指した。離床センサーの導入はベッドサイドでの事故防止につながった。ベッド内蔵型離床センサーを導入して1年経過したが、少しずつではあるが職員の心理的・肉体的な負担軽減につながっていると感じている。職員の経験や勘にうまくテクノロジーが絡み合いサービスの質につながっていくことを追求したい。

## 利用実績報告

月	従来型					
	MAX	延べ日数	空床(入院含む)	入院日数	平均	稼働率
4月	1560	1395	165	30	46.5	89.4%
5月	1612	1457	155	31	47.0	90.4%
6月	1560	1396	164	23	46.5	89.5%
7月	1612	1444	168	8	46.6	89.6%
8月	1612	1514	98	4	48.8	93.9%
9月	1560	1431	129	21	47.7	91.7%
10月	1612	1448	164	40	46.7	89.8%
11月	1560	1322	238	145	44.1	84.7%
12月	1612	1360	252	119	43.9	84.4%
1月	1612	1357	255	87	43.8	84.2%
2月	1456	1203	253	72	43.0	82.6%
3月	1612	1269	343	148	40.9	78.7%
計		16596	2384	728		
平均		1383.0	198.7	60.7	45.5	87.4%

## 事故報告・ひやりハット件数

事故報告件数	ひやりハット報告件数
34 件	206 件
事故報告件数の内で熊本市へ報告した事故件数 (報告の条件：受診や入院が発生した・誤嚥・誤薬・離設など)	
6 件	

\*月に1回の事故防止小委員会、3か月に1回の事故防止大委員会において事故検証・防止について会議をしておりますので、細かな内訳記載は省かせて頂きます。

## 苦情処理対応報告

令和4年度においては、苦情処理として対応しなければならない事案は『0』であった。ただし、『苦情がない=ご利用者・ご家族が満足』とは考えずに、常に改善や修正、気配り、心配りをしていきたいと思っている。

## 行事開催実績

月	行事内容	個別誕生会
4月		4名
5月	新茶を楽しむ会（母の日行事） プランターの花植え・菖蒲湯	2名
6月	レクリエーション（ボーリング） スペシャルデザート（父の日行事）	4名
7月	特養夏祭り（虫取りゲーム） 夏のレクリエーション	1名
8月		0名
9月	特養敬老会	0名
10月		7名
11月		2名
12月		3名
1月	写真撮影（お屠蘇）	9名
2月	節分	3名
3月	お寿司の日	7名

\*コロナ感染症予防及び2回のクラスター発生により大幅な行事中止となった。

## 研修・勉強会開催実績

\* 毎月第一火曜日特養会議内で開催

月	研修内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『新年度にあたり事業計画の共有』</li> <li>『接遇・プライバシー保護、権利擁護（身体拘束廃止・虐待防止について）』</li> <li>『トロミの研修』：口腔嚥下委員会</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『地震訓練・避難誘導訓練・洪水ハザードマップの確認』</li> <li>『事業継続計画（BCP）の見直し』：作成中</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『理念塾』：高月施設長</li> <li>『緊急時の対応確認（連絡系統）』</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『口腔ケア研修』：ハロー歯科 白石歯科衛生士</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『事故防止対策研修会（事故発生後の対応・報告・連絡）』</li> <li>『緊急時の対応確認（実際の連絡手順確認）』</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『ガウンテクニックの確認』</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『火災訓練・消火訓練・避難誘導の確認』</li> <li>『事業継続計画（BCP）の見直し』：作成中</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『感染症対策研修・ゾーニングシュミレーション』</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『接遇・プライバシー保護、権利擁護（身体拘束廃止・虐待防止について）』</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『感染症対策研修（コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス）』</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『認知症についての勉強会』：認知症リーダー実践者研修修了者</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『環境設定・嚥下・口腔体操について』：ハロー歯科 白石歯科衛生士</li> </ul>

## リデルライトとの事故事例検討会実績

\* 法人の枠組みを超えての合同事故事例検討会

開催月（第3水曜日） 14時30分～15時
4月・6月・9月・12月・2月
*年6回の開催を計画していたが、両施設ともにクラスターが発生し1回中止となった。

## 令和4年度 総括

令和4年度の稼働率は87%となり、前年度よりもさらにコロナ禍での円滑な入居調整の難しさ、努力不足を痛感・猛省した年度であった。特に2回のコロナウイルスによるクラスターはご利用者・ご家族に生命の危機、不安を与え、法人には収益減、各部署職員には過大な業務や感染するかもしれないという不安を与えた。幸いにも重篤なご利用者・職員はおらず、順調に回復し収束に至った。この経験は決して悪いことばかりを残したわけではなく、難局を法人一丸となって乗り越えたことや職員一人一人が感染症に対する知識向上・業務への自信に繋がり、結果的に『法人が一枚岩となって対応することで乗り越えられる』という実績を残した。

事故では行政報告の対象となる事故は6件あり、異食（ご自身の食事形態と違う形態を食べたというケースも含む）での報告が断トツであった。同じような内容の事故を繰り返しており対応に課題を残した。

看取り介護については、11名の退居者のうち、6名が対象となったが最期の瞬間までご入居者・ご家族の希望を出来る限り叶えられる様配慮する事が出来たように思う。

前述したコロナウイルス感染症ではサービスの提供のあり方や設備的な面などありとあらゆる事に対して緩みなく対応しなければ『お預かりした大切な命を守れない』という事実を職員皆が心に刻んだ出来事であった。また、部署を越えて法人一丸となって感染対策に取り組んだこと、感染の恐怖を抱えながらもレッドゾーン・グリーンゾーンで働いてくれたこと、そして職員が自分を律して日々の業務に臨んでくれたことについては『感謝』しかない。今後も囑託医（千場内科クリニック：千場先生）や部署を超えて法人スタッフ一丸となって対応していかなければならない。

令和5年度ではコロナウイルス感染症は2類から5類に移行し、今まで実施してきた対応方法も大幅に変わってくると思われる。いずれにしても一つ一つ確認しながら対応し、令和5年度も「大切な家族をあいこうに預けてよかった、あいこうを選んでよかった、あいこうなら安心」と多くの方が心から思っ頂ける施設作りを目指したい。

## 令和4年度 地域密着型特別養護老人ホームあいこう ひかり館 事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を施設サービスの根幹とし、基本理念を実現するために多職種が協働し施設サービスの質の向上に努めた。また、下記の目標について職員一丸となって取り組んだ。加えて SDGsに掲げられている『すべての人に健康と福祉を』という目標に携わる施設であることを意識して運営した。

- ① **入居者処遇**・・・接遇 4 か条「1.笑顔 2.挨拶 3.言葉遣い 4.身だしなみ」及び処遇 5 か条「1.言葉かけ 2.触れ合い 3.笑顔 4.目線を合わせる 5.共感する」を実践し、年 2 回の接遇研修も実施して入居者へのサービス向上に努めた。
- ② **個別ケアの充実**・・・ユニットケアの質の向上を目標として掲げ、個別のニーズに対応するため入居者及び家族から施設生活への要望等の聞き取りを行い出来る限り望みが叶うように努めた。個別の誕生会ではコロナ禍の制限された中での開催ではあったが、ご家族に写真を郵送することで誕生会の雰囲気共有でき担当職員とご家族との信頼関係の構築にも繋がった。
- ③ **入居者の健康管理**・・・定期検診や日々の観察を十分に行い、異常の早期発見に努める。また、嘱託医や産業医、協力医療機関と連携を図り適切な処置・保健指導を行った。
- ④ **認知症ケア**・・・認知症の原因となる疾患を正確に把握し、疾患ごとの特徴や対応方法についての知識を深めた。ケアカンファレンスやユニットミーティングを通して多職種協働で対応方法を検討した。ご入居者のほとんどが何らかの認知症疾患がある為に、一人一人の症状に向き合い支援していく為には重要な研修であり次年度も実施していく。
- ⑤ **事故防止の取り組み**・・・全スタッフが知恵を出し合いながら事故防止対策に取り組んだ。行政報告の対象となる事故の件数は令和 4 年度では 3 件あった。どうしても防ぎようのない事故もあるが、「事故を起こさない」「事故を減らす」という意識はスタッフ個々で高めることが必要である。

- ⑥ **リハビリテーション**・・・個別機能訓練計画書に沿って個別リハビリ及び生活リハビリの充実を図った。入居者が日常生活内で自然にリハビリができる環境作りを行った。
- ⑦ **看取り介護への取り組み**・・・いつでも看取り介護に対応出来る様、専門知識の向上を図り、入居者及び家族の希望をできるだけ叶えるための体制作りや、環境設定に努めた。令和4年度は退居者3名の内、1名の看取りを実践した。
- ⑧ **褥瘡予防対策**・・・褥瘡アセスメントをもとに褥瘡対策ケア計画書を作成。管理栄養士、看護職、介護職で連携を図り栄養管理・除圧・スキンケアに努めた。また、年1回は勉強会を開催し、褥瘡予防についての知識向上に努めた。重度の褥瘡形成のご入居者は居らずスタッフ連携のもとでケアを実施した結果であった。
- ⑨ **栄養管理**・・・食事摂取状況、体重変化や全身状態等のアセスメントやモニタリングを実施。栄養ケア計画書の定期的見直しを行い適切な管理を行った。また、咀嚼嚥下機能の評価を行い最期まで口から食べることができるよう支援した(経口維持加算の取り組み)。令和5年度においては、経口摂取している方全員に経口維持加算を算定してより細やかな対応を実施していく。
- ⑩ **行事関係**・・・コロナ禍の影響で施設内行事やレクリエーションを縮小しなければならぬ厳しい年度であった。令和5年度も感染症予防と両立してどれだけのことができるか創意工夫を行っていく必要がある。
- ⑪ **環境整備(施設整備・修繕含む)**・・・入居者一人一人が安心して、その人らしく落ち着いて生活できる環境づくりを行った。居心地のよい空間を提供した。
- ⑫ **職員教育**・・・定期的に内部研修を企画し、職員の知識とスキル向上を目指した。感染症、接遇等の研修、高齢者虐待防止研修など多岐に渡り勉強会を実施した。特に新型コロナウイルス感染症については対応をおろそかにしないよう職員教育をしっかりと行うことが様々なリスク管理に繋がっていく為に大事にしていきたい。

- ⑬ **丁寧な実習生指導**・・・「人材教育」「人材確保」という視点を持ちながら丁寧な指導を心掛けた。コロナ禍においても、介護実習、看護実習の受け入れは実施した。「実習生にとって初めての現場」、「人材育成」ということの重要性を現場職員が再認識し、丁寧な指導を心がけた。
- ⑭ **稼働率の向上(安定した収入の確保)**・・・入居者の健康管理及び待機者管理、そして医療機関との連携・調整を強化してきたが、入院・退居が続き 94%であった。定員 20 床の施設では大変厳しい結果であったと反省している。令和 4 年度は 3 名の方が退居の運びとなった。来年度は 95%以上確保できるように臨みたい。
- ⑮ **地域に根ざした施設作り**・・・麻生田小学校及び城北小学校とは総合的な学習の時間を使って交流を実施することができた。麻生田小学校では「施設の紹介」と「認知症サポーター養成講座」、城北小学校では「車いす講習会」と「認知症サポーター養成講座」を開催。今年は体育館や教室を使用しての対面での交流ができた為、活気のある活動ができた。令和 5 年度も両小学校との交流継続を予定している。管轄行政も「地域密着型」という名称を掲げる施設である以上は、法人全体はもとより施設単体であっても『地域に寄り添う、地域に何かしらを還元する』という姿勢をもつようにと強く望んでいる。来年度もできることを模索していきたい。
- ⑯ **感染症・災害に強い施設運営**・・・コロナウイルス・インフルエンザやノロウイルス等の感染症の防止に取り組み、予防から発生時の対応について職員研修等を重ね感染ゼロを目指した。その努力が報われたのか周辺の高齢者施設や病院では次々にクラスターが発生している中で、ひかり館では職員の家庭内感染はあったものの、ご入居者の感染『0』で令和 4 年度を乗り切る事ができた。火災や地震などの災害に関しては図上訓練や避難訓練を重ねることで不測の事態に対応できるようにした。今年度中にBCP(事業継続計画書)を作成することが決まりとなっている為、作成を急ぎ緊急時の施設運営を見える化していきたい。

- ⑰ 科学的介護の取り組み・テクノロジーの活用・・・L I F Eへのデータ提出とフィードバックを活用してP D C Aサイクルの推進と質の高いケアの向上を図る。ベッド内蔵型離床センサーの大規模導入によりサービスの質の向上・業務の効率化を目指した。離床センサーの導入はベッドサイドでの事故防止につながった。ベッド内蔵型離床センサーを導入して1年経過したが、少しずつではあるが職員の心理的・肉体的な負担軽減につながっていると感じている。職員の経験や勘にうまくテクノロジーが絡み合いサービスの質につながっていくことを追求したい。

## 利用実績報告

ひかり館						
月	MAX	延べ日数	空床(入院含む)	入院日数	平均	稼働率
4月	600	540	60	6	18.0	90.0%
5月	620	558	62	0	18.0	90.0%
6月	600	562	38	0	18.7	93.7%
7月	620	566	54	23	18.3	91.3%
8月	620	572	48	17	18.5	92.3%
9月	600	551	49	19	18.4	91.8%
10月	620	610	10	0	19.7	98.4%
11月	600	600	0	0	20.0	100.0%
12月	620	620	0	0	20.0	100.0%
1月	620	620	0	0	20.0	100.0%
2月	560	512	48	26	18.3	91.4%
3月	620	559	61	31	18.0	90.2%
計		6870	430	122		
平均		572.5	35.8	10.2	18.8	94.1%

## 事故報告・ひやりハット件数

事故報告件数	ひやりハット報告件数
10 件	156 件
事故報告件数の内で熊本市へ報告した事故件数 (報告の条件：受診や入院が発生した・誤嚥・誤薬・離設など)	
3 件	

\*月に1回の事故防止小委員会、3か月に1回の事故防止大委員会において事故検証・防止について会議をしておりますので、細かな内訳記載は省かせて頂きます。

## 苦情処理対応報告

令和4年度においては、苦情処理として対応しなければならない事案は『0』であった。ただし、『苦情がない=ご利用者・ご家族が満足』とは考えずに、常に改善や修正、気配り、心配りをしていきたいと思っている。

## 行事開催実績

実施月	施行日	行事内容	個別誕生会
4月			1名
5月	5日	端午の節句（柏餅・水羊羹）	1名
	8日	新茶を楽しむ会	
	4～6日	菖蒲湯	
6月	19日	父の日（季節の果物）	2名
	12日	花植え	
7月	15日	うなぎの出前	0名
8月	21日	おやつ作り（かき氷・綿あめ）	0名
9月	18日	敬老会	1名
10月	30日	花植え	0名
11月	25日	出前（寿司）	1名
12月	22～25日	ゆず湯	3名
	24日	クリスマス・忘年会	
1月	1日	お屠蘇	3名
2月	3日	節分（豆まき）	4名
	26日	おやつ作り（桜餅・おはぎ・桜羊羹）	
3月	3日	ひな祭り	4名

## 研修・勉強会開催実績

\* 毎月ユニットミーティングにて開催

月	研修内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『接遇・プライバシー保護、権利擁護、身体拘束廃止、虐待防止について』</li> <li>『24時間シートの見直し』</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『地震訓練（避難誘導など）について』</li> <li>『事業継続計画（BCP）の見直し』：作成中</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『緊急時の対応方法（判断基準・連絡順序・カルテの確認など）について』</li> <li>『理念塾』：高月施設長</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『口腔衛生の管理指導（歯科衛生士による技術・助言）』：事前撮影の動画</li> <li>『24時間シートの見直し』</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『接遇・プライバシー保護、権利擁護、身体拘束廃止、虐待防止について』</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『認知症について』</li> <li>『経口維持加算・おやつの食事形態について』</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『火災訓練（消火訓練・避難誘導）について』</li> <li>『事業継続計画（BCP）の見直し』：作成中</li> <li>『24時間シートの見直し』</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『感染症対策について（コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス等）』*動線の確認・レッドゾーンへの進入等：現時点での想定している範囲等</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『事故防止対策（発生後の報告・連絡の流れ・適切な対応など）について』</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『ターミナルケア・看取り介護について』</li> <li>『褥瘡予防・対応について』</li> <li>『24時間シートの見直し』</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『感染症対策について（コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス等）』</li> <li>*ゾーニングシュミレーション</li> <li>『事業継続計画（BCP）の見直し』：作成中</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>『口腔衛生の管理指導歯科衛生士による技術・助言』</li> <li>：ハロー歯科：白石歯科衛生士からの指導資料活用</li> <li>『一年の振り返り（各委員会のまとめなど）』</li> </ul>

※KYT 訓練は毎月行う

## リデルライトとの事故事例検討会実績

\* 法人の枠組みを超えての合同事故事例検討会

開催月（第3水曜日） 14時30分～15時

4月・6月・9月・12月・2月

\* 年6回の開催を計画していたが、両施設ともにクラスターが発生し1回中止となった。

### 令和4年度 総括

令和4年度の稼働率は94%となり、昨年度よりは微増の稼働率向上となった。コロナ禍での円滑な入居調整の難しさは依然として変わらない状況である。入居調整に対して努力不足を痛感した1年であった。

事故については、大きな事案はなかったが『事故を起こさないという意識』を職員一人一人がきちんと持つことが令和5年度も要求される。

看取り介護については、3名の退去者のうち、1名が対象となった。最期の瞬間までご入居者・ご家族の希望を出来る限り叶えられる様に配慮する事が出来たようには思う。

コロナ感染症対応では、周辺の高齢者施設や病院でクラスターが相次ぐ中で、幸いにもご入居者に感染がなかったことは法人一丸となって感染対策に取り組んだこと、職員が自分を律して日々の業務に臨んでくれたことの成果であると思う。今後も嘱託医（千場内科クリニック：千場先生）や部署を超えて法人スタッフ一丸となって対応していかなければならない。

令和5年度ではコロナウイルス感染症は2類から5類に移行し、今まで実施してきた対応方法も大幅に変わってくると思われる。いずれにしても一つ一つ確認しながら対応し、令和5年度も「大切な家族をひかり館に預けてよかった、ひかり館を選んでよかった、ひかり館なら安心」と多くの方が心から思っている施設作りを目指したい。

## 令和4年度 指定短期入所生活介護事業所あいこう (指定介護予防短期入所生活介護事業所あいこう) 事業報告

令和4年度の指定短期入所生活介護事業所あいこう及び指定介護予防短期入所生活介護事業所あいこうの事業報告にあたっては、あいこうの基本理念《夢・愛・自然・尊厳》を念頭に置きながら、具体的に以下の事項に力を入れました事をご報告致します。加えてSDGsに掲げられている『すべての人に健康と福祉を』という目標に携わる施設であることを意識して運営した。

- ① **利用者処遇**・・・接遇4ヶ条(1笑顔 2挨拶 3言葉遣い 4身だしなみ) 処遇5ヶ条(1言葉かけ 2触れ合い 3笑顔 4目線を合わせる 5共感する)を実践し、かつ年2回の接遇研修も実施してご利用者への接遇サービス向上に努めた。
- ② **個別ケアの充実**・・・生活歴や性格等を的確に把握し、その方に合わせた対応を心掛けた。また、SSは在宅がベースであるという点から、入浴は家庭に近い雰囲気、排泄面ではその方のリズムに合わせたトイレでの排泄等、在宅と同じ対応方法で行い不快感のない環境整備にも心掛けた。
- ③ **認知症ケア**・・・認知症介護の研修は認知症リーダー研修修了者を講師として特養あいこう会議で開催した。また認知症委員会も活発に活動し、楽しみながら認知症予防ができるクイズの掲示など創意工夫が見られた。ご利用者のほとんどが何らかの認知症疾患がある為に、一人一人の症状に向き合い支援していく為には重要な研修・取り組みであり次年度も実施していく。
- ④ **事故防止の取り組み**・・・試行錯誤しながら事故防止対策に取り組んだが14件の事故、そのうち行政報告の対象となった事故の件数は3件であった。SSはあくまでも在宅が生活の場である為、自宅に帰れなくなるような事故は避けなければならない。次年度も「事故を起こさない」「事故を減らす」という意識をスタッフ個々が高める必要がある。
- ⑤ **リハビリテーション**・・・個別リハビリテーション及び生活リハビリテーション等の充実を図った。SSは在宅が主体という認識をし、利用中にADLが低下しないように努めた。

- ⑥ **栄養管理**・・・在宅生活を想定した食事形態を提供。食事形態も極端に変更せずに、できるだけ在宅と同じように支援した。
- ⑦ **行事関係・レクリエーション**・・・コロナ禍の影響で施設内行事やレクリエーションを縮小を継続しなければならない厳しい年度であった。令和5年度からは感染症予防と両立してどれだけのことができるか創意工夫を行っていく必要がある。また、SSご利用者はご入居者と比べると心身機能が高い方（介護度が軽度の方）が多い為、その方々にあった内容も工夫していく必要がある。
- ⑧ **環境整備(施設整備・修繕含む)**・・・ご利用者一人一人が安心して、その人らしく落ち着いて利用できる環境づくりを行った。また、修繕や改修・取替えが必要な備品整備も実施した。
- ⑨ **職員教育**・・・計画的に内部研修を企画し、職員の知識とスキル向上を目指した。感染症、接遇等の研修、高齢者虐待防止研修など多岐に渡り勉強会を実施した。新型コロナウイルス感染症については次年度からは2類から5類に代わることで感染予防の対応が変化していくことは想定できる。コロナウイルス感染症に限らず正しい感染予防方法を皆が周知できるような職員教育をしっかりと行うこと大事である。
- ⑩ **アセスメント・ケアプラン・ケース記録の充実**・・・ケアプランに沿った支援が大切であるかを職員に意識付けさせるよう努めた。また、初めてご利用される方の情報はきちんと関係部署へ伝達を行う事で事故防止に努め、同時に利用者が不安にならないようにコミュニケーションを取るよう心掛けた。
- ⑪ **サービスステーション内の整理整頓**・・・仕事が円滑に行くようにサービスステーション内の整理整頓を心掛けた。ご利用者の荷物の管理においては紛失物がないようにチェック時にタブレットで写真を撮影することで画像を活用するなどの工夫を行った。

- ⑫ **医療・保健・衛生面の管理**・・・ご家族、各居宅、SSご利用者のかかりつけ医への連絡調整により管理体制に注力した。また新型コロナウイルス感染症に対しては、SSご利用者4名の感染が確認された。熊本市保健所との調整・入院調整の困難さなど苦慮する事態であり、新型コロナウイルス感染症の対応の難しさを痛感した経験であった。今後も利用時前の健康チェック及び体調不良時の家族や居宅介護支援事業所との早急な連携を図り、スピーディーな対応ができるようにしたい。
- ⑬ **稼働率の安定**・・・新型コロナウイルス感染症の2回のクラスター、4名のSSご利用者感染により該当月のご利用がかなりの減少となった上、それ以外の月でも感染を恐れて利用を控える方やこちらから利用を控えて頂くよう働きかけたこともあり、全体的な利用者減につながったかなり厳しい年度であった。コロナ禍の状況下であっても安定した利用稼働率を保つことができるように地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所と感染症対策を含めた連携を図っていく必要がある。
- ⑭ **レセプトの正確な処理**・・・利用実績のもと各居宅介護支援事業所との利用日数や栄養課との食数の突合をしっかりと行い過誤請求が起きないように遂行した。幸いにもご家族・居宅に迷惑をかけるような過誤請求などはなく処理することができた。
- ⑮ **感染症・災害に強い施設運営**・・・インフルエンザやノロウイルス等の感染症の防止に取り組み、予防から発生時の対応について職員研修等を充実させ感染ゼロを目指していた。しかしながら、令和4年11月～令和5年1月にかけて新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生及びSSご利用者の感染判明という事態が続いた。幸いにも重篤になるようなケースはなかったものの、職員は日々不安と恐怖につぶされそうになりながらの対応であった。ただし、悪い事ばかりではなくこの事態を無事に乗り越えた経験は、職員一人一人の自信にも繋がった。火災や地震などの災害に関しては図上訓練や避難訓練を重ねることで不測の事態に対応できるようにした。今年度中にBCP（事業継続計画書）を完成させることが決まりとなっている為、作成を急ぎ緊急時の施設運営を見える化していきたい。

- ⑯ **テクノロジーの活用・・・ベッド内蔵型離床センサーの大規模導入によりサービスの質の向上・業務の効率化を目指した。**離床センサーの導入はベッドサイドでの事故防止につながった。ベッド内蔵型離床センサーを導入して1年経過したが、少しずつではあるが職員の心理的・肉体的な負担軽減につながっていると感じている。職員の経験や勘にうまくテクノロジーが絡み合いサービスの質につながっていくことを追求したい。

### 利用実績報告

ショートステイ					
月	MAX	延べ利用日数	空床	平均	稼働率
4月	540	324	216	10.8	60.0%
5月	558	369	189	11.9	66.1%
6月	540	389	151	13.0	72.0%
7月	558	466	92	15.0	83.5%
8月	558	448	110	14.5	80.3%
9月	540	438	102	14.6	81.1%
10月	558	406	152	13.1	72.8%
11月	540	242	298	8.1	44.8%
12月	558	366	192	11.8	65.6%
1月	558	292	266	9.4	52.3%
2月	504	345	159	12.3	68.5%
3月	558	432	126	13.9	77.4%
計		4517	2053		
平均		376.4	171.1	12.4	68.7%

### 事故報告・ひやりハット件数

事故報告件数	ひやりハット報告件数
14 件	85 件
事故報告件数の内で熊本市へ報告した事故件数 (報告の条件：受診や入院が発生した・誤嚥・誤薬・離設など)	
3 件	

\*月に1回の事故防止小委員会、3か月に1回の事故防止大委員会において事故検証・防止について会議をしておりますので、細かな内訳記載は省かせて頂きます。

## 苦情処理対応報告

令和4年度においては、苦情処理で対応しなければならない案件はなかった。ただし、苦情がないからご利用者が満足しているとは考えずに、気配り・心配りをしていきたい。

## 令和4年度 総括

令和4年11月～令和5年1月のコロナ感染症に伴うクラスターは収益に大打撃を与え厳しい年度となった。コロナ感染予防の為にSS利用を控えて頂くことも数回あり、キャンセルの延べ人数はかなりの数になった。令和5年度よりコロナウイルス感染症への対応も大きく変わっていく。『できる事を一つ一つ積み重ねる』ことが、結果的にサービスを必要としている方達への支援、利用稼働率に繋がることを信じて対応していく。

## 令和4年度 ケアハウスあいこう 事業報告

令和4年度は、新型コロナウイルスを筆頭に感染症予防対策を講じながらも、ご入居者のQOLの維持・向上を目標として業務に取り組んだ。これまでの自粛生活の中で影響を受けた体力や筋力の低下、意欲の低下、認知機能の低下傾向をいかに少しでも回復させることができるかが最大のテーマであり、職員が意識して業務に取り組むための課題でもあった。これらを踏まえて、各目標における取り組みについて事業報告を行う。

### ① ご入居者のQOLの維持、向上

SDGs 目標3に関連して「ご入居者の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」を柱として考える。

1. 日常生活の中の様々な場面で徐々に生活しづらくなった部分について、ご入居者本人と話し合いを行い、職員から改善のための助言をすることでご入居者の日常生活における困りごとは減少したように思う。介護認定への導入を行うことも多かった。
2. 新型コロナウイルスの感染予防対策は、感染状況に応じて緩急をつけながら行い、できるだけご入居者の生活に窮屈さが出ないように努めた。12月に新型コロナウイルスの感染者が発生し(3名)、ケアハウス内での療養も行ったがクラスターに発展することなく収束した。
3. 介護予防への取り組みについては、ラジオ体操や貯筋体操の継続、敷地内の散歩の推奨、行事への参加の声かけ、脳トレのレクリエーション、通所サービスやその他の事業(プールやグランドゴルフ)の利用、訪問歯科や訪問リハビリのサービス開始、体調観察の徹底、病院受診の声かけや同行などをご入居者に提案し、介護予防へと繋げる支援を行った。
4. 地域貢献については、令和4年度もなかなか活発に行うことができなかったが、さわやかフェスタの生配信の視聴、町内会から依頼があった募金に対してご入居者への周知及び協力の依頼の実施等を行った。
5. ケアハウスでの生活に関するアンケートについては、令和4年度からご入居者だけでなく、そのご家族にも実施した。ご家族目線でのご意見をいただくことができたが、コロナ感染予防のためケアハウス内にご家族が立ち入ることを制限していたため、詳しい内容の回答をいただくことは難しかった。今後、アンケートの内容を再検討し、ご入居者、ご家族ともに回答しやすいものに変更していく必要がある。

6. 環境整備は、共用部分では清潔と動線の安全確認を心がけた。各居室についても動線の確保の声かけを常に行い、掃除や片付けの方法などの助言も行った。
7. 共用スペースの有効活用は、ご入居者が感染症に集団感染されることを防ぐため、なかなか実行することができなかった。
8. 職員教育において、ケアハウスでの職員の立場や役割を統一することが難しかった。研修に関しては、必要と思われる研修を取り入れることができた。

## ② 経営の安定

全室満床の維持のために、ご入居者の健康管理や生活上の不便さの改善（介護認定の声かけ、介護サービスの導入、ご家族など関係者との相談、ケアハウス職員の一部支援など）に取り組むことができた。ご入居者の健康管理の面では、なかなか把握しづらい部分もあり、今後医療機関との連携もこれまで以上に必要である。

※苦情について…特になし

## 令和4年度 デイサービスあいこう 事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を在宅サービスの根幹とし、その基本理念を実現するために多職種が協働し在宅サービスの質の向上に努めた。今年度もコロナウィルス感染症の感染予防対策を中心に、下記の目標について職員一丸となって取り組んだ。

- ① **利用者処遇**・・・接遇4か条「1.笑顔 2.挨拶 3.言葉遣い 4.身だしなみ」及び処遇5か条「1.言葉かけ 2.触れ合い 3.笑顔 4.目線を合わせる 5.共感する」を徹底し、接遇目標を掲げご利用者へのサービス向上に努めたが、不適切なケアではなかったかと反省する点や私語が多かった場面等あり、今後も注意が必要だと感じる。職員間で意識し、改善していかなければならない。
- ② **安定した経営**・・・今年度も新型コロナウイルス感染症が定期的に拡大し、営業中止・利用控えや新規利用者減少等により目標の数値には到達出来ず、経営的に非常に厳しい状況となった。来年度から事業所規模の変更を行い、通常規模での業務を行う事とした。
- ③ **利用者ニーズ**・・・お一人お一人の状態に応じた個別ケアに取り組んだ。利用者アンケートや担当者会等で本人・ご家族の要望をお聞きし、実行出来るか否か、その都度職員間で話し合い、利用日の変更・追加、ご希望の時間に配慮した送迎の対応や必要な方への家庭内支援に努めた。
- ④ **行事・レクリエーション**・・・新型コロナウイルスの影響が続いており、レクリエーション活動も限られた内容になっているが、ご利用者に楽しんで頂けるよう対応している。午前中は塗り絵や頭の体操を中心に入浴・リハビリに、午後は習字やゲーム・製作活動等希望される方に参加して頂いている。外出もままならず唯一花見が出来たので皆さん喜ばれていた。他ご利用者や職員との交流も楽しみにされており、移動八百屋やとくし丸でのお買い物も楽しまれていた。

- ⑤ **業務改善**・・・コロナ禍で業務改善というより感染対策に追われる日々だった。換気や手洗い・消毒が必須となり、業務の中に組み込み思いつく限り様々な場面で見直しを行った。午後からの検温も感染対策の一つとして取り入れた。また、口腔ケア時の混雑による転倒のリスク回避の為職員の休憩時間の入り方、帰りの呼び出し時の荷物運び等、安全にご利用頂けるようにした。
- ⑥ **リスクマネジメント**・・・事故報告 15 件〔車輛 2 件 身体 13 件(転倒 8 件 誤薬 2 件 異食 1 件 その他 2 件)〕ヒヤリはっと報告 222 件で前年度と比べ事故が増えている。転倒事故は尻もちをつかれたものが殆どではあったが高齢者がバランスを崩しやすい状態にあることが浮き彫りとなった。誤薬や異食も職員の不注意とも言える為、今後更に確認が必要である。ヒヤリはっと報告は、細かな事柄でも上がっているので、職員の意識付けに役立っており、事故防止に繋げていきたい。新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、密を避け「マスク着用の声掛け・手洗いや手指消毒・換気・テーブル・手すり・車輛の消毒」等出来る事は何でも取り組んだが、年末からの感染者増で、ご利用者及び職員も感染してしまい営業を中止する等対応に追われる事となった。今後も安全に過ごして頂く為に今回の経験を踏まえた取り組みを継続していかねばならないと感じた。
- ⑦ **入浴**・・・自宅での入浴が困難な方に安全な入浴の提供を行い、清潔の保持に取り組んだ。また、体を温め血行を促し疼痛緩和、気分転換に努めた。その際、全身状態の観察を行い塗り薬の塗布や傷の処置、必要時ご家族に医療機関への受診を勧めている。乾燥肌の方にはワセリン等を塗布し、スキンケアにも取り組んだ。
- ⑧ **個別機能訓練**・・・昼食前のストレッチ体操や午後のレク体操に加えエスカルゴ・ニューステップ・エアロバイク・プーリー等を使用し、筋力維持・関節可動域向上に努めた。また、日常生活動作の評価を行い維持・向上を目的とした訓練で、QOL に繋げることが出来た。
- ⑨ **口腔ケア**・・・誤嚥性肺炎の予防に取り組むことを目的に、食前の口腔体操・唾液腺マッサージ・食後の口腔ケアで口腔内環境の改善に努めた。現在、口腔機能に問題のあるご利用者にケアを促し対象者を増やしているところである。また、口腔ケア時の混雑を避ける為、職員の休憩時間の変更等にも努めた。

- ⑩ **地域貢献**・・・新型コロナウイルス感染症の為、地域の方々との交流は厳しい状況となった。送迎時の見守り等、感染症対策を行いながら出来ることに努めた。

※苦情について・・・苦情はなかった。しかし、職員の接遇面についてご利用者からの相談があった。接遇については、目標を掲げ取り組んでいたのだが、まだまだ意識が足りなかったと感じている。また、言葉遣いにも注意が必要であった。

## 令和4年度 指定居宅介護支援事業所あいこう 事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を根幹とし、在宅でケアマネジメントを必要とする利用者の自立した生活を支えるために、コロナ禍であってもICTの活用等行いスキルアップ、人材育成に努めた。また、社会福祉法人愛光会職員としてSDGsの実践、地域の認知症徘徊者声掛け模擬訓練参加等、地域社会貢献にも積極的に取り組んだ。

- ① **担当件数の確保**・・・新人職員も2年目となり個人目標となる件数を達成したことで令和4年度請求件数は前年度プラス13.5件となった。今後も経営の安定を意識し、新規利用者の受け入れを積極的に行い担当件数の確保に努めていきたい。  
令和4年度請求件数1897.5件（前年度プラス13.5件 ※予防委託は0.5で換算）月平均請求件数158件
- ② **新人教育・人材育成**・・・介護支援専門員実務研修の実習受け入れが無かったため令和5年度は積極的に受け入れたい。居宅職員の資質向上のため外部での事例検討会、ICTを活用し多くの外部研修会に参加した。
- ③ **介護保険動向の情報収集**・・・介護保険改正等情報収集のため、オンライン勉強会等情報交換の場に積極的に向いた。
- ④ **地域との交流・地域貢献**・・・地域の認知症徘徊者声掛け模擬訓練参加等、地域社会貢献にも積極的に取り組んだ。麻生田ネットワークの会など地域の会合や行事、オレンジカフェ等に参加し地域住民との交流も行う事で地域に根ざした事業所となれるよう努めていきたい。
- ⑤ **施設見学・情報収集**・・・コロナ禍で施設見学は実施できなかったが、新しい事業所の情報収集を行い情報を共有する等、ご家族に多くの情報提供が出来るよう努めた。
- ⑥ **他部署との連携他部署への応援**・・・コロナ対応など他部署と連携を図り他部署への協力を可能な限り行った。

- ⑦ **SDGsの取り組み**・・・節水、節電、リサイクルごみの分別徹底や毎月一回、施設周りのゴミ拾い等の環境保全を行った。
  
- ⑧ **苦情について**・・・担当交代の希望があり、不満に感じておられた点を傾聴するとともに他ケアマネジャーに速やかに交代し対応している。

## 令和4年度 ヘルパーステーションあいこう 事業報告

社会福祉法人愛光会の基本理念である「夢・愛・自然・尊厳」を施設サービスの根幹とし、その基本理念を実現するために多職種が協働し在宅サービスの質の向上に努めた。下記の目標について職員一丸となって取り組んだ。

### ① 利用者処遇

接遇4か条「1.笑顔 2.挨拶 3.言葉遣い 4.身だしなみ」及び処遇5か条「1.言葉かけ 2.触れ合い 3.笑顔 4.目線を合わせる 5.共感する」を徹底させ、利用者へのサービス向上に努めた。

### ② 経営の安定

前年度と比較して年間延べ利用者人数が200件程減少。冬季の入院やコロナウイルス感染症の影響、登録ヘルパーの体力に応じた勤務の調整等が利用者減の原因となった。受け入れ可能な限り新規利用者獲得に努めたが需要と供給のバランスが難しく件数が伸び悩んだ。

### ③ スタッフの質の向上

日頃からヘルパー同士または多職種との交流や内部・外部研修を通して知識を高め、専門性を意識付けする機会を設けるようにしているが、令和4年度はコロナウイルス感染症の影響により内部研修がメインとなった。利用者に満足して頂けるサービスの提供ができるよう更に情報の共有・交換に重点を置き、自己研鑽に努めた。

### ④ 記録・ケアプランの充実

現状に即した計画が提供できるよう利用者の十分な状態把握に努め、定期的にケアプランを見直し自立支援の視点に立って適切な介護サービスが行えているかを確認した。

改善点など検討会議開催を通して話し合い、ケアの統一に取り組み、月毎にサービス実施報告書を作成し担当ケアマネへ報告を行った。

#### ⑤ リスクマネジメント

介護事故防止に最新の注意を払い安全にサービスを提供することができた。破損や買い物時に預かったポイントカードの返却忘れ等あったが、迅速に対応する事で安心して頂けた。

※苦情について・・・苦情にまでは至らなかったが言葉の受け取り方による誤解、ヘルパーとの性格の不一致に対する不満などがあった。

#### ⑥ 報・連・相の徹底

小さな事でも必ず報告・連絡しながら何でも相談できる環境作りを目指し、日々変わる利用者の健康状態等をヘルパー全員で情報共有し把握できるよう努めた。

#### ⑦ 生きがい作り

誕生日や敬老の日などプレゼントを贈ることで利用者との信頼関係が強化できた。ヘルパーが訪問することを楽しみにしている利用者も多く、生活環境も良くなりたくさんの笑顔に出会うことができた。

#### ⑧ 他部署との協働・連携

コロナウイルス感染症の影響で他部署への出入りに制限がかかり協働の機会が少なかった。連携としてヘルパー利用者がデイサービスやショートステイを利用する時には情報交換を行い、共通の視点でケアができるよう努めた。

#### ⑨ 関連サービスとの連携

各関連サービス・福祉・医療その他の関連領域に従事する方と積極的な連携を図り、利用者が安心して在宅生活を送れるよう協力して行動した。また、近隣事業所や共通する利用者を抱える他法人の訪問介護事業所とも協働して、感染拡大防止、災害時の緊急対応に取り組み、お互いに助け合える関係性の構築を目指し今後も課題とする。

#### ⑩ 地域貢献

地域奉仕活動は自粛。可能な限り住み慣れた地域での生活を望んでいる住民の方がほとんど。基本的な挨拶などを心掛け、関係性を築くことにより必要な情報の提供・収集が可能となり一人でも多くの方の力になれると考える。コロナウイルス感染症の影響で色々な行事が中止となったが、ヘルパーとして今の状況で出来る事を行った。

#### ⑪ 制度改正への対応・取り組み

今後も行われる制度改正について情報収集を行った。長い視点でポイントを読み取り安定した事業所運営を目指す。利用者が1日でも長く在宅で過ごせるようヘルパーのスキル向上や他機関との連携を強化し専門性を持ったサービスの提供を行っていくことを目標とする。

新型コロナウイルス感染症が流行して3年が経過した。利用者並びに私たちの生活も一変してしまっただが、新しい生活様式のもと感染対策を行いながらも、在宅ケアの最前線を担うヘルパーは日々使命感を保ちながら誠心誠意のサービスに努めてきた。これからはウィズコロナ・アフターコロナとどのように向き合っていくのか、ヘルパーにはこの3年間で培ってきたことを活かして、利用者が安心・安全に在宅生活を続けることができるよう、今後も専門性と共に質の高いケアが求められる。

## 令和4年度 熊本市北4地域包括支援センター 熊本市高齢者支援センターささえりあ新地 事業報告

### ① 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業

◎介護予防支援・介護予防ケアマネジメント計画表（ケアプラン）作成件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護予防 支援	包括 作成 居宅 委託	108	107	107	111	110	104	106	107	101	104	107	110
		35	37	38	37	36	39	37	40	37	40	41	41
介護予防 ケアマネ ジメント	包括 作成 居宅 委託	61	61	65	62	56	54	55	55	55	56	51	54
		30	33	35	38	35	33	36	35	39	34	36	33
合計		234	238	245	248	237	230	234	237	232	234	235	238

《委託率 31%》 総計 2842

### ② 総合相談支援業務

1) 相談方法・月別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話	58	90	60	45	77	95	74	51	62	62	59	83	816
来所	7	16	21	3	8	9	11	15	18	20	11	19	158
訪問	153	108	153	125	158	165	124	115	123	142	141	137	1644
合計	218	214	234	173	243	269	209	181	203	224	211	239	2618

## 2) 相談内容別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅・生活支援関係	4	2	1	0	1	2	0	0	0	0	0	1	11
介護保険関係	162	161	182	131	193	207	161	135	147	148	146	179	1952
保健・医療関係	18	17	16	18	18	22	15	16	15	18	24	15	212
認知症について	4	6	7	4	11	9	7	7	12	14	16	9	106
権利擁護について	8	2	4	6	1	2	3	4	3	8	2	13	56
家族問題	3	7	3	3	1	3	1	1	0	4	1	7	34
経済的な問題	6	3	4	4	1	5	1	1	6	3	9	7	50
住宅に関する相談	8	8	5	4	3	8	7	5	7	13	7	4	79
在宅高齢者事業	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
地域支援事業	4	4	6	2	2	6	1	3	2	2	2	3	37
その他相談	0	4	5	1	12	5	13	9	11	14	4	1	79
合計	218	214	234	173	243	269	209	181	203	224	211	239	2618

※苦情について…特になし

### ③ 包括的、継続的ケアマネジメント支援業務

◎定例会・地域行事・連絡会、各種教室、公的保健福祉サービスの広報・啓発等

令和4年度	取り組み状況
※地域との連携体制づくり	☆地域機関の活動等に参加。介護保険制度・健康・予防についての説明、介護予防の体操実施。インフォーマルサービスの収集、情報提供、意見交換。地域包括支援センターの広報誌作成、各校区へ配布する等の活動を行う。
① 各校区いきいきサロン、老人会、介護予防教室、地域支え合い型サービス等	<ul style="list-style-type: none"> <li>*老人会：さわやか会 {麻生田2町内老人会} (7回)</li> <li style="padding-left: 2em;">福寿会 {麻生田3町内老人会} (7回)</li> <li style="padding-left: 2em;">万年青会 {麻生田5町内} (10回)</li> <li>*サロン：にこにこサロン (6回)</li> <li>*介護予防教室：太極拳ゆったり体操 (4回)</li> <li>*健康教室 (2回)</li> <li>*地域支え合い型 通所サービス <ul style="list-style-type: none"> <li>麻生田校区：かたらん会 (8回)</li> <li>城北校区：堀川うごこう会 (3回)</li> </ul> </li> </ul>
②民生委員児童委員協議会情報共有、意見交換	*民生委員児童委員との情報交換、情報共有広報活動等 {麻生田校区 (11回) 城北校区 (11回)}
③校区ブロック会議 社会福祉協議会、自治協議会、民児協議会、区役所福祉課等と意見交換、検討会	<ul style="list-style-type: none"> <li>*校区高齢者の状況について、地域福祉活動への取り組み等の意見交換会、検討会</li> <li>・24日会：麻生田・城北・清水・高平台校区会議 (6回)</li> <li>・城北校区行動計画策定会議 (2回)</li> <li>*校区ネットワークの会 (3回)</li> </ul>
④連絡会議・連携会議等	<ul style="list-style-type: none"> <li>*北区管内地域包括支援センター連絡会議 (6回)</li> <li>*権利擁護委員会 (6回)</li> <li>*看護職能連絡会議 (9回)</li> <li>*生活支援コーディネーター連絡会議 (6回)</li> <li>*北区主任ケアマネネットワークの会役員会 (6回)</li> <li>*いきいき未来のつどい実行委員会 (2回)</li> <li>*清水まちづくりセンター連絡会議 (6回)</li> <li>*自立支援型地域ケア会議 (8回)</li> <li>*校区自治協議会検討会 (6回)</li> <li>*北区地域包括ケアシステム推進会議 (1回)</li> </ul>
⑤養成講座等	<ul style="list-style-type: none"> <li>*認知症サポーター養成講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>・城北小学校 4学年対象 (10月14日)</li> <li>・熊本市北老人福祉センター健康教室 (2月20日)</li> <li>・麻生田小学校4学年対象 (3月9日)</li> </ul> </li> <li>*ZOOM 活用講座 民生委員 事業所対象 (1月12日・13日)</li> <li>*麻生田校区認知症徘徊者声掛け模擬訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>・麻生田小学校運動場 (3月19日)</li> </ul> </li> </ul>
⑥高齢者見守り事業	*麻生田校区・城北校区在住の70歳以上の高齢者実態把握の為、ポスティング活動、また必要時戸別訪問

※上記の活動については、感染症予防対策を行った上で開催（リモート開催も有）。

#### ④ 研修会・勉強会等

◎関係機関等との連携を図る為、また、事業所及び個人のスキルアップを行うべく、下記のとおり研修会・勉強会等に参加した。

開催日	研修名	概要
6月6日	自立支援型地域ケア会議研修会	実施支援・課題の抽出等について
6月8日	生活支援コーディネーターカフェ	生活支援コーディネーターの活動支援について
7月6日	九州厚生局地域共生セミナー	北九州医療介護連携プロジェクト・鹿児島県における在宅医療介護連携推進事業・あらお健康手帳について
8月5日	生活支援コーディネーターカフェ	地域住民主体の移動支援の取り組みについて
9月1日 9月2日	生きがい助け合いサミット	先進自治体の地域共生社会への取り組み・市民後見人の支援活動の連携・孤立した方への地域の取り組み
9月20日	熊本市地域包括支援センター連絡協議会研修会	くまもとメディカルネットワークについて・養護老人ホームについて
10月10日	地域いきいき健活イベント	通いの場のお役立ち情報や健康に関する講演や測定会・ながら体操等
10月10日	通いの場フェスティバル	私の町の通いの場自慢コンテスト・ポストコロナ時代の通いの場のかたち・通いの場の運営者サミット
10月28日	生活支援コーディネーターカフェ	地域の方の居場所作りと通いの場創設について
11月24日	栄養アセスメント研修会	ケアプランに活かせる高齢者の栄養アセスメントと指標～ケアマネジャーの視点と利用者への助言やサービス活用について～
12月6日	生活支援コーディネーター研修会	食の力で地域を豊かに事例から考える「食」のアクションプラン
12月14日	ペアステーション研修会	災害時等、事業所間の連携・協働
12月19日	精神疾患研修会	精神疾患について、種別・対応等
12月21日	生活支援コーディネーターカフェ	地域とつながる（地域作りの実践報告）
1月18日	北区主任ケアマネ研修会	ハラスメントについて
1月31日	ハンセン病問題に関する研修会	ハンセン病問題の基礎知識・現状と課題・在宅生活されている方からの相談対応の際の留意点
2月14日	地域包括支援センター実務者研修	介護予防の推進・地域特性を活かす・権利擁護の推進について
2月17日	権利擁護に関する研修会	成年後見制度と後見人の実務について
2月21日	介護サポーターフォローアップ研修	校区の特色と既存サービスについて
2月28日	ケアプラン点検結果報告・介護保険制度の動向に関する研修会	ケアプラン点検結果報告・介護保険制度の今後の方向性と介護支援専門員の役割について
3月14日	熊本市校区社協連絡協議会熊本市社会福祉協議会	共催研修「本人の気持ちに寄り添う」支援～意思決定支援とは～
3月22日	熊本市社会福祉協議会報告研修会	校区行動計画策定報告会

※感染症予防対策を行った上で開催（リモート開催も有）。

## まとめ(考察)

新型コロナウイルス感染症に対する規制も徐々に緩和し、活動を再開する地域団体も増え、協働して活動へ取り組んだ。次年度、活動再開へ向けて、より多くの地域団体が動き出すと思われるので、感染症予防を継続しながら、地域支援にしっかり取り組んで行く。そして、なじみの関係づくり、相談しやすい環境づくりに努め、社会福祉法人愛光会の基本理念《夢・愛・自然・尊厳》を念頭に置き、麻生田校区・城北校区の高齢者の方々が、住み慣れた地域で安心して過ごす事が出来るように、地域全体で支え合う支援体制（地域包括ケア）の構築を目指していく。